

(SDGs(教科は決めず))

SDGs の理念のもとに、「総合的な言語活動」を通して、
読解力を中心とした思考力・判断力・表現力等を育成する

大阪市立新東三国小学校 研究部

1. 研究主題設定の理由

本校は、教育目標を「確かな学力と健やかな体、豊かな心を育てる」として掲げ、子どもが安心して成長できる安全な社会の育成、心豊かに力強く生き抜き、未来を切り拓くための学力・体力の向上を、めざし取り組んでいる。

本校では、昨年度からあらゆる教科学習の中で、貧困・飢餓・健康・教育・ジェンダー・水・エネルギー・平等・まちづくり・気候変動・平和・公平など、様々な視点で問題点を知り、解決に向けて学習を進めてきた。SDGsの「誰一人取り残さないことを誓う」というこの言葉は、普通に生活している人々に今一度、身の回りを見直すことを求めており、我が国のような豊かに見える国にも、実は多くの問題があることを突きつけられていると考える。

私たちの世界をよりよい場所にするために何が必要なのか、今こそ考える必要がある。SDGsの理念を考え、誰一人取り残さない学力の向上をめざし、実践に結びつけていくことを研究テーマに掲げることにした。

また、情報を正しく読み取り要約することに加え、読み取ったものから考えを形成すること、さらにその考えを表現するとともに、交流してその考えを広めたり深めたりすること、こうした力を総合的読解力という。リベラル・アーツ教育とは、この総合的読解力の育成をめざし大阪市全体で取り組む教育のことである。今年度は、SDGsに加えて、リベラル・アーツ教育の推進にも力を入れることとした。

2. 研究趣旨

本校の実態で見ると、日常生活について「何が問題であるか。」という課題意識に乏しく、指示されたことはできるが、自ら進んで課題を見つけ、主体的に解決しようとする力に課題をもつ児童が多い。

また、現代社会においては、幅広い知識や、多様な価値観への理解が必要であるが、一つの分野しか興味がないという姿勢では、乗り越えることができない問題がたくさんある。そこで、多岐にわたる分野を学びながら、論理的思考や問題に向き合う姿勢、多様なものの見方を身に付けさせたいと考えた。

SDGsの理念を念頭に入れたリベラル・アーツ教育を推進するにあたって、今年度は全学年の研究教科を1つに絞らず、学年の実態に合わせどの教科でも実践に挑戦し、総合的・横断的な学習をめざすこととした。

3. 研究の概要

研究主題にせまるため、研究の視点を以下のように設定した。

視点① 適切な情報を正しく読み取る

○教科書や資料、調べたことなどの内容を正しく読み取ることを重視し、主語、述語を意識して指導者が問いかける場を多く持つ。

○朝の自主学習の時間を設けることなどで、自ら学習を行い、振り返ることができるよう場の設定が定着を図る。

視点② 自分の意見や考えをしっかりと持つ

- 児童が進んで学習しようとする態度を育て、自分の意見や考えを持つためにはどうしたらよいか、学年、クラスで児童の実態に合わせた工夫を行う。
- 朝の会で「1分間スピーチ」を行ったり、帰りの会では友だちの良さを共有したりする場などを設ける。
- 学習時間にはペアトーク、グループトークを積極的に取り入れ、グループ活動では、今日の司会者を設定し、自分の意見を持って他者へ発表するという場を多くもつ。
- 自分の意見をノートやワークシートに整理し、まとめたことをグループや全体場で発表する場を多くもつ。

視点③ 多面的な見方ができる

- 指導者が一方通行にならないよう学習内容に児童の意見を引き出す工夫を行う。
- 発問を工夫し、児童が自ら課題設定ができるよう心掛ける。
- 活動の時間を多くとり、個人で考える時間と話し合って共有する時間を分ける
- 学習のまとめは、みんなで設定しためあてに対してのひとつのまとめを持つこともあれば、教科によっては、学習のふりかえりをする。
- 学習時に友達と協力して課題解決をする内容を取り入れる工夫を行うようにする。

4. 研究の成果と今後の課題

(1) 研究の成果

- 教師が投げかけた発問に、児童がすぐに手を挙げて答えるといった活動を、ペアで意見交換を行ってから答えさせてみたり、学習のまとめを指導者がまとめるのではなく、児童とともに考え、まとめていくといった形態をとったりした。さらに、学習の終わりに感想を書かせることで、自分が学んだことを振り返り、深い学びがあったかどうかを確認することができた
- 「リベラル・アーツ教育」で意識した活動は、これまでも推奨されている活動ではあったが、指導者が意識して積極的に取り入れることで、学力の向上につながることが分かった。
- 語彙力を高めるための活動の工夫に関しては、朝の自主学習の時間を設けることなどで、自ら学習を行い、振り返ることができるよう場の設定が定着してきた。

(2) 今後の課題

- 「SDGs」の内容を意識しながら「リベラル・アーツ教育」の推進を十分に発揮できる授業内容を検討していく。
- 研究教科を決めていないため、指導案の書き方や、指導方法が教科によって様々で研究の軸がぶれないようにすることが難しかった。そのため、問題となったことを解決する道筋を明らかにしていくことが課題である
- 研修で得た思考ツールについての知識をもとに、学習中、どのような場面でどのように活用をすればよいかを考え、準備できるようにしていく。